課題教育	校種間連携	・中学校区内の保幼小中の連携	<p>B</p> <p>○中学校区内の保幼小中の教師間での研修会参加、定期的な管理職の連絡会での情報交換や課題についての連携できた。</p> <p>○近隣の保育所や私立保育所との交流の「プレ1年生」行事も具体的にかつ定期的に実施していくことも忘れない。</p> <p>○小学校教諭の出前授業を受けたり、近隣の保育所園児と一緒に交流したり、就学する小学校の授業参観へも行ったりすることができた。</p> <p>○小学校にも幼稚園を公開し、異校種で見学し合い滑らかな接続や育ちについて考える機会を設けた。</p>	<p>○ 小学校への段差を少なくするために保幼小中との連携は大切である。引き続き、小学校への参観や情報交換、研修会を進めてもらいたい。</p> <p>○ 幼児が実際に小学校の授業を見ることは、滑らかな接続につながる。今後も小学校へ行きたくなる工夫をしてほしい。</p>
	特別支援教育	・幼児一人一人の課題を職員で共通理解そして支援体制の工夫	<p>A</p> <p>○担任や加配教員が中心となり幼児の状況を発信することで、一人ひとりの育ちや課題を共有しながら全職員が連携し関わることができた。今後も全職員で連携を密にして、個別支援計画に基づき、支援できるように努める。</p> <p>○家庭との連携も図っていく工夫にも努める。</p>	<p>○ 一人ひとりを大切にする保育を継続してほしい。</p>
独自項目	めざす子ども像の推進	・保育要領に沿った保育の推進と工夫	<p>B</p> <p>○幼児が自分らしく安心して生活できるように幼児理解に努め、一人ひとりの発達や育ちに応じた援助を心掛けた。</p> <p>○今年度は研究園としてのテーマを中心に保育を進めることが多かったが、この研究で学んだことを意識して今後の保育を進める。</p> <p>○幼児同士が相手の気持ちに気付く場面を設定したり、思いを上手に表現する場面づくりを作ったりとめざす子どもの姿（いわゆる「10の姿」）に近づけるよう保育を展開する。</p>	<p>○ 就学前施設としての役割をさらに進め、一人ひとりがしっかりと力をつけて小学校に就学できるよう保育を進めてほしい。</p>
	保護者連携	・親育てとともに保護者と園双方の連携による子育て	<p>B</p> <p>○未就園児クラスを実施することができ、より幼稚園の雰囲気になれる機会になったと保護者からも喜ばれた。ただ、在園児と一緒に遊ぶことが少なかったので次年度の課題としたい。</p> <p>○園児数が減少しているからこそ、PTAのみならず保護者と交わる機会を設け、保護者と園による子育ての充実を図りたい。</p>	<p>○ 未就園の子どもや保護者の交流場所として園庭開放や教室を引き続き開催してもらいたい。公立幼稚園を知ってもらえるよい機会となる。</p> <p>○ 保護者の協力が得られるよう魅力ある園運営を心掛け、幼稚園教育を盛り上げてほしい。</p>

5 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

保護者対象のアンケートを各行事や年度末に実施し、結果をふまえ教職員で丁寧に自己評価を行っており、情報収集は適切である。また、様々な意見や感想に対しても真摯に受け止め、園の見解を掲載していることは評価できる。

6 総合的な学校関係者評価

- ・ 平日頃から幼児の様々な体験や経験となる行事や保育を心掛け、工夫したり丁寧に声掛けを行っていることを今後も継続してもらいたい。
- ・ 園児数が少なくなっていることをメリットととらえ、さらなる工夫で就学前施設としての責務を果たしてももらいたい。

7 市教育委員会等への要望

- 園児数減少への歯止めとなる公立幼稚園の魅力づくりやサポートをしっかりと考えてほしい。
- 支援が必要な園児にとって、公立幼稚園がセーフティネットの役割を果たせるように保育環境や人的環境を整えてほしい。
- 保育後の預かり保育の負担軽減や養護教諭（助教諭）の定数配置など専任性や教員数確保に精力的に取り組み、少しでも業務改善が進み、日常の保育が充実でき、魅力ある公立幼稚園となるよう、推進してもらいたい。